

栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	山梨県
再委託先	早川町

1 事業推進の体制

実践中心校	早川町立早川中学校
協力校	早川町立早川南小学校、早川町立早川北小学校
関係機関	早川町学校給食センター

2 具体的な取組等について

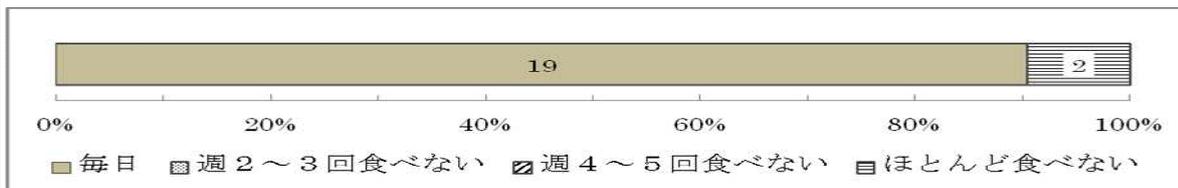
テーマ1	学校における食育授業推進のための取り組み
評価指標	小中学校における食育事業等の実施状況
効果	小中学校共に計画に基づいた授業実践ができ、食に対する関心が高まっている。また、食生活調査の実施により、生徒の実態を把握することができ、研究や指導に生かしながら取り組みを進め、朝食を欠食する生徒を0%にすることができた。

(取組状況)

(1) 食生活アンケートによる実態調査

平成22年度児童生徒の食事状況等調査を参考に7月、12月に実施。

7月



12月



7月には「ほとんど食べない」生徒2名が、12月には「毎日食べる」「週2～3回食べない」になった。

(2) 食に関する指導の全体計画・年間指導計画の見直し

昨年度までに作成した全体計画と年間指導計画を見直した。特に学級活動の各月の指導内容が明確になるように食育の視点を当てはめた。また、各教科との関連では、栄養教諭の指導を必要とするもの、資料提供が必要なものを年間計画に明記した。

(3) 食育への理解を深めるための校内研修

早川中学校において、8月に山梨県スポーツ健康課指導主事早川貞子先生により「栄養教諭を中核とした食育推進事業について」の講義を実施した。

(4) 小学校、中学校における食育授業等の実践

① 中学校における授業実践。

1年生：学級活動「間食のとり方について」

2年生：学級活動「もったいない」

3年生：学級活動「上手に食べて賢くなるよう」

1年生：家庭科「給食の献立をたてよう」「ほうとう作り」



② 年間指導計画に基づいた指導内容を発達段階に合わせて資料作成し、小学校においては学級担任が指導し、中学校においては栄養教諭が給食時間に一斉指導を行った。

③ 小学校の授業実践は、町内小中学校食教育研究部会の研究と連携させて授業実践を行ったり、給食と関連させて学級活動を行ったりした。また、総合的な学習の時間でも食育と関連させた内容を取りあげ実践した。

早川南・北小学校1年生：学級活動「給食センター見学」

早川南小学校3年生：学級活動「早川町産の食材を使って、作ってみよう」

早川南小学校4・5・6年生：総合的な学習の時間「豆腐づくり」

早川北小学校1年生：学級活動「朝ごはんを食べよう」

早川北小学校1・2年生：学級活動「とうもろこしの皮むきをしよう」



テーマ2	学校給食を活用した食に関する指導充実のための取り組み
評価指標	食に関する指導における学校給食の活用状況
効果	給食時間に多方面から働きかけることにより、食への興味関心が高まり、知識を広めつつある。

(取組状況)

(1) 給食の時間における食に関する年間指導計画の作成

教科との関連や給食委員会活動を計画に入れて作成し、それに基づき給食時間にいろいろな手段を用い指導を行った。

(2) ランチルームを活用した一斉指導による給食時間の充実

① 給食委員会の生徒が、毎月目標に合わせて5分間発表を行った。「良くかんで食べよう」「朝食の大切さ」「スポーツと食事」「給食の歴史」など。



② 栄養教諭は、食事のマナーや今日の給食の食品、その時期に合わせた食生活の指導などについて全体指導を行った。

(3) 地場産物の学校給食への活用

地場産物を使ったメニューを給食に取り入れ、その際には地場産物の特徴や栄養を知らせ、生産者の紹介等も行った。



(4) 給食に対する興味・関心を高める活動

① 給食関係の掲示板、展示コーナーの設置と工夫

ランチルームなどに給食関係の掲示板を設置し展示や飾り付けを工夫し、食について目にしたり、触れたり考えたりする機会を設け興味を喚起した。



② 郷土食や行事食、セレクト給食の実施。

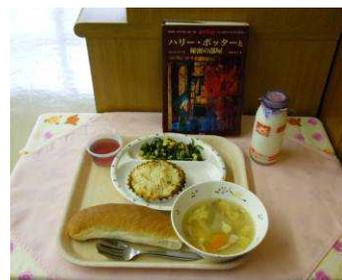
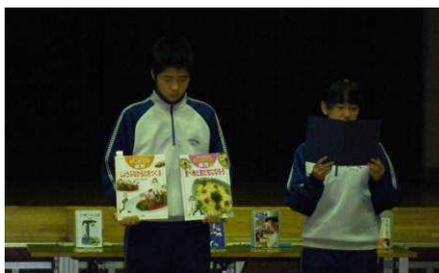
ハロウィン給食



主菜とデザート
を選びました



③ 図書委員会や図書館司書、養護教諭と連携して行事に合わせた取り組みを行い、食や健康について関心を高めた。



長距離記録会に向けて、給食委員会による発表と合わせ、養護教諭の健康指導とも連携させ、食生活や睡眠時間、運動量などを記録し、記録会当日に向け、生活習慣を見直す取り組みにつなげた。



テーマ3	学校・家庭・地域が連携した食育推進のための取り組み
評価指標	家庭・地域との連携状況
効果	町内の各種団体との連携を図ることにより、協力体制を築きつつある。また、講演会を実施することなどにより、保護者の食への関心が高まりつつある。

(取組状況)

(1) 地場産物の学校給食への活用

生産者試食会を開催し、町内外の生産者や給食関係者の理解を深め、連携することにより早川町産や山梨県産の食材の利用に努めた。



(2) 調理講習会の開催

食生活改善推進委員の協力を得て、教職員対象の調理講習会を実施した。また、福祉保健課と連携し児童対象の調理講習会を実施した。

教職員対象調理講習会

「こんにゃく作り」

小学生栄養教室

「おいしく！楽しく！やさいを食べよう」



(3) 生産に関わる体験活動の実施

早川南小学校でしいたけの植菌体験学習を実施。中学校では学校農園で野菜を栽培収穫し給食への活用を行った。



(4) 給食試食会の実施

小学校2校、中学校において全保護者を対象に給食試食会を実施した。また、町関係者を対象とした試食会も開催し、学校での食育の取り組みや給食の様子を紹介し理解を深めた。

(5) 保護者を対象とした食育に関する講演会の開催

中学校の生徒、保護者に行った食生活アンケート調査の結果を含めた内容の食育講演会を実施した。



(6) 給食レシピの作成と配布

給食の献立の中からおすすめ献立を選び出しレシピ集を作成し、町内の小中学校の家庭や地域の学校へ配布した。

テーマ1～3に共通する取組	
評価指標	全体計画、年間指導計画の改善状況
効果	委員会活動や栄養教諭、学級担任による指導はもとより、全ての教職員が機会を捉え食に関わる指導をおこなうことで、生徒が自分の食生活を振り返り意識を高めている。
<p>(取組状況)</p> <p>(1) 早川中学校での研究 校内研究に食教育部会を設け、分科会が中心となり諸活動や授業実践の計画を作成し、全職員で連携を図りながら行った。</p> <p>(2) 食生活アンケートを生徒・保護者に実施し、その結果を授業や講演会に活用した。12月には、再度アンケート調査を行い、前回と比較分析し成果と課題をまとめた。</p>	

3 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

<ul style="list-style-type: none"> ・食生活調査の実施により、生徒の実態を把握することができ、研究や指導に生かしながら取り組みを進めることができた。その結果、食生活の改善も見られるようになってきた。 ・生産者や南アルプスふるさと活性化財団の担当者が理解を示し、栽培品種を増やす計画も出された。関係者の連携により、今後も地産地消を進めていきたい。 ・給食委員会の活動を活発に行うことを重点的に行ったが、その他の委員会とも連携することにより、委員会活動全体が意欲的に行われるようになった。 ・給食試食会、食育講演会、食育便りやレシピ集の発行などにより保護者の食に関する理解を深めることができた。 ・町福祉保健課、食生活改善推進委員、早川町森林組合、南アルプス活性化財団等地域の方々に関わることにより、多方面から食育を広めるつながりを作ることができた。

4 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

<ul style="list-style-type: none"> ・食に関する授業や諸活動の実践後は関心や意欲が高まるが、これを日常生活の中で実践、習慣化していくための働きかけを続けていくことが必要である。学級活動のみならず、各教科等の授業でも更に、実践を重ねることにより食への関心が多角的に広がるであろうと考える。 ・今年度は中学校が中心の研究であったが、小中学校9年間を通して発達段階に応じた食育がなされるよう、小学校との食に関する年間指導計画のすりあわせが必要である。また、センター給食なので保育所との連携のあり方も考えていく必要がある。 ・食育の充実のため家庭や地域との連携をより深める方法を考えていきたい。
